様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月　１日現在

機関番号：11101
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2008～2011
課題番号：20592570
研究課題名（和文）　継続ケアが必要な慢性疾患患児をもつ母親の社会的支援ネットワークに関する研究
研究課題名（英文）　A study regarding the social support network for mothers whose children requiring continuous medical cares for chronic diseases
研究代表者
北宮　千秋（KITAMIYA CHIAKI）
弘前大学・大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：10344582

研究成果の概要（和文）：
本研究は、乳幼児期の慢性疾患患児をもつ母親のソーシャルサポートとコンボイモデルの特徴を健常児の母親との比較から明らかにする。
健常児の母親は慢性疾患患児の母親と比較して他者からのサポート期待が高い。他方、コンボイモデルには、健常児と慢性疾患患児の母親との違いは認められなかった。健常児の母親は主観的幸福感が低いときに、健康群は夫および義母との心の距離が有意に離れていた。しかし、慢性疾患患児の母親は主観的幸福感による、夫との心の距離に違いは見られなかった。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to clarify the social support network for mothers whose children have chronic disease.
Healthy children's mothers expected more support from the others than mothers whose children regularly go to hospital. On the other hand, the convoy model did not show any difference between the two groups. When a subjective feeling of happiness is measured low in mothers of healthy children, the distance between minds of husbands and mothers-in-law is significant. However, in mothers of children with illness, a subjective feeling of happiness does not affect the distance with husbands.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	800,000	240,000	1,040,000
２００９年度	1,100,000	330,000	1,430,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
２０１１年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学
キーワード：慢性疾患患児の母親、ソーシャルサポート、ストレス、コンボイモデル

１．研究開始当初の背景
2007年第５次医療法の改正に伴い、医療が地域と連携した包括的な活動を行うことを医療計画に盛り込むことが求められるようになってきた。このことにより医療が施設内で終わらず、在宅に目を向けた施策が推進されてきている。しかし、その対応は成人および高齢者に焦点化された動きであ

り、母子分野においては後追いしている現状である。近年、子どもを育てる環境改善への取り組みとして、小児のケアに関連して訪問看護制度の利用、教職員の気管内吸引や経管栄養などの医療的ケア実施などがある。一方、核家族化に伴う家族介護力の低下により、子どもの入院・母親の付き添いが家族に与える影響など差し迫った課題が出ている。疾病をもつ子どもを地域で育てる現システムを評価しながら、子どもと保護者の視点に立った継続ケアのためのシステムづくりを構築することが重要と考えられる。

子どもと保護者の視点にたった継続ケアのシステム作りを構築するには、まずその対象である母親について理解を深めることが重要となる。母親は健康な子どもの育児についても不安をもつ。その育児不安は、子どもの行動や態度といった子どもの発達上の特性、母親の育児観や自己効力感から影響を受けるとともに、育児へのソーシャルサポート状況が影響している（渡辺・石井2005）とされる。慢性疾患患児の母親は、さらに多様なストレスや不安を抱えていることは容易に想像できる。しかし、慢性疾患患児の母親の育児ストレスやサポートに関する研究は少なく、丸ら（1997）による「慢性疾患患児をもつ母親の育児ストレスの特徴と関連要因」や吉田(2004)による「小児気管支喘息児を育てる母親のストレスとソーシャルサポート」などが散見される。健康な子どもや障害をもつ子どもに関する研究が中心に行われ、慢性疾患患児とその母親については、充分な検討が行われていない状況といえる。

また、北宮の保健師と養護教諭の連携体制に関する調査からは、連携に焦点をあてたためか、その対象となるべき子どもおよび保護者に関する項目は抽出されず、対象者からの視点により、当事者を取り巻く支援体制を構築することが必要と考えられた。さらに、平成17年度から、当研究グループが、H大学病院小児科外来において、小児慢性疾患患児の保護者を対象に現在の支援状況に関する調査を実施した。母親の子育てに対する支援者は祖父母が最も多く、3割が相談できる人を持っていない状況であった（扇野ら、2006）。

ソーシャルサポートは、支持的な対人関係の存在やそこから得られる援助（久田、1987）により、その人の心身の健康を損なわないような生活上の出来事に対する対処資源としての役割があると主張されている（Cobb、1976;久田、1987など）。

一方で、他者依存性が高いとサポート関係への満足度の低さをもたらし、心理的な苦痛へとつながる（福岡、2003）という。慢性疾患患児の母親の中で高不安群は、医療サービスおよび福祉サービスに対する満足度が低い（北宮ら、2006）ことからも、サポート量だけではとらえられない、個人のもつ資質がソーシャルサポートの効果に影響すると考えられる。

また、ソーシャルサポートに関する研究では、サポート提供者とともにサポートの種類が検討されている。それは、情緒的サポート、手段的サポート、情報的サポート、評価サポート(House1981)、コンパニオンシップサポートなどに分類されるが、家族間や友人といったインフォーマルな情緒的サポートや手段的サポートに関する研究が主体となっており専門職者のサポート種類まで含めての研究は少ない。その一つである障害のある子どもの母親の育児コンボイモデルでは、同心円の中心から関係性の最も密な「home member(夫・両親)」、次に「profession（専門家)」、「relatives（友人・近所)」の順となっており、専門家と友人の順序が一般的なモデルと異なる構造となった（種子田ら、2002)。慢性疾患患児の母親についても医療・教育・福祉との関わりが強いことから、サポート構造を明らかにすることが必要であろう。

２．研究の目的

小児慢性疾患を有する子どもは、数年または病気によってはその病気とともに様々な医療・保健・福祉・教育のもとで生涯生きていくことを余儀なくされる。

慢性疾患患児と保護者への支援においては、子どもは成長発達するという特性や医療的ケアは長期に亘ることから、継続的ケアシステム作りを構築することが、子どもと保護者の生・生活の質を保証するうえで重要な課題である。これまで慢性疾患患児の母親に対するソーシャルサポートや育児不安に関する研究は散見されるが、子育てという長期的な視点や医療・保健・福祉・教育という多角的な視点で検討されていない。さらに、ソーシャルサポートの必要性・満足度は保護者の心理的側面からも影響されることが我々の先行研究で示唆された。そこで、豊かで安定した社会的コンボイの持ち主が人生の危機に耐性があるとするコンボイモデル理論に基づき、慢性疾患患児の母親のソーシャルサポートについて、保護者の心理的側面との関連性から明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

平成21年3月から平成23年3月にかけて、2つの質問紙調査を無記名自記式により実施した。対象は慢性疾患をかかえて小児科外来に通院する子どもの母親および4保育所に通園している乳幼児の母親とした。調査方法については当該研究成果のところで述べる。

調査内容は、母親のストレス、主観的幸福感、他者依存性、不安、ソーシャルサポートの他にコンボイモデルの主要他者の位置づけとした。

ストレスは、心理的ストレス反応尺度（SRS-18）を用いた。この尺度は、3つの下位尺度、『抑うつ・不安』、『不機嫌・怒り』、『無気力』により構成されており、各尺度とも6項目の質問項目をもち、計18項目からなる。「全くちがう；0」、「いくらかそうだ；1」、「まあそうだ；2」、「その通りだ；3」の4段階評定により回答を得た。

主観的幸福感は9段階評定の顔面表情尺度（Wedell,D.H.他）を用いた。

母親の特性としての項目である他者依存性については、Interpersonal Dependency Inventory Japanese Sort Form（JIDI)の3つの下位尺度のうち、内的整合性があり、尺度に相関のみられた「情緒的依頼心」(6項目)および「社会的自信の欠如」（9項目）の15項目を用いた。「非常にそうである；4」から「そうでない；1」の4段階評定により行った。

ソーシャルサポートは、Jichi Medical School ソーシャルサポートスケール（JMS-SSS）を用いて、配偶者、実母、義母、友人、近所、その他の人について調査した。それぞれの存在の有無を確認し、有の場合には、情報的サポート（2項目)、手段的サポート（4項目)、情緒的サポート（4項目）の10項目を測定する。ただし、配偶者は8項目で測定する。最もサポートが期待される回答に4点、以下、3点、2点、1点を付し、該当者がいない場合は0点とした。

コンボイモデルは各重要他者を心の距離で示し、0を自分自身、4を遠い存在としたときに、夫、実母、義母、友人、近所の人が同心円状にどのように配置されるかを検討するものである。

倫理的配慮として、質問紙調査は、配布時に研究の趣旨を説明し、研究の目的、実施方法、個人情報の保護、クレームの自由等を説明した。調査への同意については、調査票の回収をもって同意とした。

なお、弘前大学大学院医学研究科倫理委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

(1) 慢性疾患患児の母親を対象とした調査

はじめに、慢性疾患患児の母の不安とソーシャルサポートの関係を検討した。1)～3）の調査は、平成18年度～21年度にかけて行った。この調査を元に、慢性疾患患児の母親のストレスと主観的幸福感の調査や慢性疾患患児を育てる母親と健康な子どもを育てる母親の調査を展開した。

①慢性疾患患児の母親の不安に関する背景要因の基礎的研究

慢性疾患患児をもつ母親の不安に関する背景要因を検討することを目的とした。対象者はA病院小児科外来通院児の母親76人とした。背景要因として児の病状や家族構成、同居外サポート者および医療・福祉の満足度などとし、不安状況は清水らのState-Trait Anxiety Inventory(STAI)を用いた。母親の不安は、同居祖父母や近所の人・友人からの影響がみられた。特に同居している祖母の影響が大きく、母親の不安を和らげる効果をもつことが示された。核家族化の進む現在において拡大家族のもたらすサポート役割の重要性を示す結果となった。

②慢性疾患患児が利用しているサービス情報源

慢性疾患患児をもつ親は、子供の療養を支え、医療との関わりを続けながら、福祉や保健、教育といった社会資源をどのように活用しているのか、その活用状況を把握することを目的とした。慢性疾患と知的または身体的障害を抱える児の親6名を対象に質問紙調査および半構造化面接を行った。質問紙調査により社会的サービス内容とサービスを受けるに至った経緯を調査し、その後、面接により社会資源の聞き取りを行った。

社会的資源活用については、医療面での情報源は医師が中心であった。福祉、保健、教育といった社会資源の活用については窓口が一カ所に定まっておらず、親の開拓力により知り得た情報が多かった。関係する施設も多くなっており、子どもの病状を理解してコーディネイトする役割を担う人材の必要性が示唆された。

③慢性疾患患児の就学前後の親の体験

障害を伴った慢性疾患患児の就学前後の親の体験を明らかにすることを目的とした。対象は慢性疾患および身体的・知的障害のためにA病院小児科外来通院児の母親5名であった。半構造化面接を行い、インタビュー内容を質的帰納的に分析した。子どもの小学校入学までの親の体験として、【学校選択に関する親の希望】、【教育機関への戸惑い】、【学校の決定要件】、【家族内調整】、【サービス不足】、の5つのカテゴリーが抽出された。就学先を決定する際は、医療側も家族の相談に応じ、親の戸惑いを軽減することが求められた。入学後には【通学の工夫と困難】、【学校の大切さ】、【不快な体験】、【あきらめ】、【疾患に関連した配慮】、【親の行動を支えるもの】、【社会とつなぐ努力】、【今後への不安】、8つのカテゴリーが得られた。

④継続ケアが必要な慢性疾患患児の母親のストレスと主観的幸福感

慢性疾患患児を育てる母親のストレス反応と主観的幸福感に関連する個人特性や背景について検討した A 病院小児科外来通院児の母親 235 人を対象とし、無記名自記式の質問紙調査を実施した。調査期間は平成 22 年 2 月から 4 月とした。

医療的ケアをもつ子どもを抱える母親にストレス反応が有意に高く、主観的幸福感は低かった。また、親の病状認識（安定～不安定）において、安定と答えた母親のストレス反応は低く、主観的幸福感は高かった。つまり、母親のストレスや主観的幸福感に関連する背景要因として、子どもの医療的ケアや病状認識が認められた。母親にとって子どもの疾患の状態が心理的健康を左右する要因になり得ることが確認された。

さらに母親のソーシャルサポートから検討したところ、サポート者の有無によるストレス反応の比較から、近所が「ある」の人のストレスが「なし」の人よりも有意に低かった。また、近所サポートと通院間隔に正の相関が認められた。通院期間が短いほど近所との付き合いが疎遠になり、時間的、心理的な余裕のなさの現れとも考えられた。

(2) 慢性疾患患児を育てる母親と健康な子どもを育てる母親の比較検討

①慢性疾患患児の母親のソーシャルサポートの特徴-健常児の母親との比較から

慢性疾患患児の母親は、長期的な闘病生活が続くことから、多くの周囲の人々からの援助を受けて、子育てをしている。乳幼児期の慢性疾患患児をもつ母親のソーシャルサポートの特徴を健常児の母親との比較から明らかにすることを目的とした。

慢性疾患患児が通院する 4 病院の外来と 4 保育園において、母親を対象としたソーシャルサポート等に関する調査を実施した。病院の小児科外来担当者に調査票の配布を依頼し、回収は個別の郵送により調査者への返送または外来での留め置きとした。また、保育園の協力を得て、同様の項目を用いて留め置きによる質問紙調査を実施した。調査期間は平成 21 年 11 月から 23 年 3 月にかけて行った。分析対象は子どもの年齢が 7 歳未満の外来通院児 161 人、健常児 158 人とした。

通院児の母親と健常児の母親の、主観的幸福感、ストレス、他者依存性、ソーシャルサポートの各項目について分析を行った。項目差が認められたのはソーシャルサポートであり、健常児の母親の方にサポート得点が高いことが認められた。外来通院児の母親に子どもの闘病という困難を経験する中で、他者へのサポート期待が低下している状況にあることが推察された。

②慢性疾患患児をもつ母親のコンボイモデルから社会的支援ネットワークを分析

上記①で行った調査の中から、慢性疾患患児の母親のコンボイモデルを作成し、社会的支援ネットワーク構造を明らかにすること、健常な子どもを育てる母親との比較から、慢性疾患への医療的なかかわりのある母親の特性をみいだすことを試みた。

コンボイモデルを平均および最頻値を参考に配置すると、健常児の母親は夫、実母が同心円状の 1 に位置し、義母および友人が 2、近所が 3 に位置付いた。通院児の母親も同様であった。両者のコンボイモデルには有意な差は見られなかった。

そこで、コンボイモデルが示す重要他者との心の距離、他者依存性、主観的幸福感等との関連を検討した。

その結果、主観的幸福感の高低により、通院児の母親は義母および友人の距離が有意に離れ、夫との距離に違いは見られなかったが、健常児の母親は夫および義母との距離が有意に離れていた。また、ストレスは、通院児の母親が友人の距離および近所と弱い正の相関がみられたが、健常児の母親は夫の距離および義母に弱い正の相関、友人に弱い負の相関がみられた。ソーシャルサポートと心の距離は、両群ともに中程度～強い相関が認められた。さらにサポート授受との関係では通院児の母親において、夫との距離が 1 とするものに同等と答えるものが多く、夫との距離が 2 と 3 回答した対象者が夫に対してサポートを与える方が多かった。

両群のコンボイモデルは一見違いがない。しかし、そのコンボイを構成する背景としてのストレスや主観的幸福感、ソーシャルサポートにその特徴を見いだす事ができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 扇野綾子、北宮千秋、一戸とも子、鈴木光子、成田牧子、米坂 勧：障害のある慢性疾患患児の就学前後における親の体験、弘前大学大学院保健学研究科紀要、9、21－28、2010、査読有

② 北宮千秋、扇野綾子、一戸とも子、鈴木光子、成田牧子、米坂勧：慢性疾患児の母親の不安に関する背景要因の基礎的研究、弘前大学大学院保健学研究科紀要、7、1-8、2008、査読有

〔学会発表〕（計 6 件）

① 北宮千秋、鈴木光子、一戸とも子、扇野綾子：慢性疾患患児の母親のソーシャル

サポートの特徴-健常児の母親との比較から-第31回日本看護科学学会(高知市)、2011.12.3

② 扇野綾子、北宮千秋、鈴木光子、一戸とも子：継続ケアが必要な慢性疾患患児の母親のストレスと主観的幸福感（１）－背景要因及び他者依存性との関連－、第30回日本看護科学学会学術集会、2010.12.4、札幌

③ 北宮千秋、扇野綾子、一戸とも子、鈴木光子：継続ケアが必要な慢性疾患患児の母親のストレスと主観的幸福感（２）－母親のソーシャルサポートとの関連－、第30回日本看護科学学会学術集会、2010.12.4、札幌

④ 北宮千秋、芝山江美子：障害をもつ子どもの親からみた保健師の支援者像－親への聞き取り調査から－、第68回日本公衆衛生学会総会、2009.10.22、奈良

⑤ 北宮千秋、扇野綾子、鈴木光子、一戸とも子：障害を伴う慢性疾患児が利用しているサービスとその情報源、第28回日本看護科学学会学術集会、2008.12.13、福岡

⑥ 扇野綾子、北宮千秋、一戸とも子、鈴木光子：障害を伴う慢性疾患患児の就学前後における親の体験、第28回日本看護科学学会学術集会、2008.12.13、福岡

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
北宮　千秋　（KITAMIYA CHIAKI）
弘前大学・大学院保健学研究科・准教授
研究者番号：10344589

(2)研究分担者
一戸　とも子（ICHINOHE TOMOKO）
弘前大学・大学院保健学研究科・教授
研究者番号：10110412
鈴木　光子（SUZUKI MITUKO）
弘前大学・大学院保健学研究科・講師
研究者番号：90113810
扇野　綾子（OUGINO AYAKO）
弘前大学・大学院保健学研究科・助教
研究者番号：70400140

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：